

第 10 回農業農村情報研究部会勉強会議事要旨

日時： 平成 18 年 4 月 21 日（金）15:00-17:00

場所： 東大農学部 7 号館 A 棟 7 階 717 号室

出席者（順不同）：大政謙次（東大），古賀徹（農水省），鎌田知也（農水省），大西亮一（日本水土総合研究所），谷 茂（農工研），石山齊（パスコ），三谷歩（パスコ），石岡義則（パスコ），溝口勝（東大），清水 庸（東大）

1．報告事項

- ・出席者に名簿の確認をお願いした。
- ・学会に H17 年度の活動報告と H18 年度活動計画書を提出した。
- ・ARIC に「農業農村情報の利活用に関する調査検討委託事業」の報告書を提出した。
- ・大会時の企画セッションの講演に関して、講演要旨が紹介された。

2．勉強会

2.1 中山間地域における防災システム 谷 茂 氏（農村工学研究所）

- ・農村工学研究所が作成した，GIS による「ため池」に関する防災システムについて，紹介された。氾濫解析のシミュレーション結果は，インターネット・携帯電話を利用して，適時・的確に伝達されるシステムとなっている。
- ・想定ユーザーは市町村，県，農政局であり，その利用は農業的なものにとどめている。
- ・ため池は全国で 20 万箇所存在するが，1 年間に整備できる箇所は 300～400 箇所であり，すべてを一度に整備することは難しい。そこで，潜在的にリスクが高い箇所でのリスク評価が必要とされており，減災という視点が必要になる。

2.2 農村振興局防災課関連新規・拡充事項 古賀徹 氏，鎌田知也 氏（農水省）

- ・「ため池等農地災害危機管理対策事業」，「津波・高潮危機管理対策緊急事業」に関して紹介された。
- ・国営造成施設 1600 箇所（ダム・水路など）の防災体制を整えていく必要がある。また，県の施設についても同様。
- ・農業農村における防災という観点で，ため池に着目する点は，物理的には決壊した際の水流出が被害を大きくすること，社会的には，ため池を管理する人が少なくなってきたおり，潜在的なリスクは大きくなっていることが挙げられる。

2.3 第3期科学技術基本計画の概要と農業農村情報 溝口 勝 氏（東京大学）

- ・総合科学技術会議が出した「第3期科学技術基本計画」について紹介があった。
- ・第3期は社会に還元する科学技術を基本姿勢としており、何のために、誰のために必要か？という視点が不可欠になっている。

3．次回会合

平成18年6月16日15時～17時，東京大学農学部7号館A棟を予定している。